

校長室だより

6月号

杉並区立向陽中学校
令和元年6月28日発行
校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」

◇ 「自立した学習者」の育成を支える『人間賛歌の教育』を推進したい

く “人として生きることの素晴らしさ” を向陽中生に実感させたい 〉

「いろんな人と話ができて、友だちが増えたことです」、「話したことのない人に積極的に話しかけることができたことです」、「みんなが仲良くなり、クラスの和を作ることができたことです」…。1年生がフレンドシップ・スクールを終えての感想を話してくれました。実は“人とかかわる、人を知る、人と心が通じ合う、人と目的を共有する”ことは、人間賛歌の教育の基本中の基本です。私が向陽中生に関心を持ち関わろうとするのもこうした理由からです。

今年のフレンドシップ・スクールは予想以上に1年生の心を和ませ、人間関係づくりに効果的だったようです。そして、その後にあった運動会の練習を通してクラスの和がより強くなったとの声も聞きました。こうした声を聞くことができたのも、1年生一人一人が「私がやる！」という意識が高かったことと、学年という集団を意識できたからだと思います。右の田植えの写真からもこのことが伝わってきます。私がやる！という前向きな心構えも“人として生きることの素晴らしさ”を実感することに欠かせません。

6月の上旬から1年生と面談を行っています。その目的はフレンドシップ・スクールで覚えかけた1年生の名前と顔を一致させることです。また、4人一組で面談を行うことで、自分以外の3人それぞれの“いいところ”や“頑張っていること”を話してもらい、自己肯定感を持たせたい、前向きに生きてほしいという思いがあります。そして、私が向陽中生に伝えたいことで締めくくります。それは「人



やる気満々の1年生。模範の田植えに興味津々。みんなであっという間に！

として生きることは素晴らしいことなんだ！」という人間賛歌。向陽中生が学習に前向きに取り組んだり、学校行事等で力を合わせて達成感を味わったり、一方で、苦勞したり挫折したりと、いわゆる“喜怒哀楽”をいっぱい味わうなかで、困難を乗り越える力を身に付けてほしい。その先にはきっと「人として生きることの素晴らしさ（人間賛歌）」を実感できる時が来るからと伝えていきます。

〈 “自立” に向かう葛藤や紆余曲折こそが人間賛歌の実感に欠かせない 〉

6月14日(金)の午後、第1回進路説明会のために体育館に集まった3年生はとても落ち着いて見えました。卒業後の自身の進路にかかわることだから当然といえばそれまでですが、最上級生として運動会をけん引した自負と達成感がそうさせたのではないかと私は思います。このように一つ一つを確実にやり遂げていくことが自分自身や学年集団に自信と誇りを与えてくれます。この自信と誇りの積み重ねこそが進路を切り拓く力になるとともに、人間賛歌の実感につながります。がんばれ！3年生。

4月に最上級生と呼ばれ始めて間もないのに、1学期の3年生はとても頼もしく感じます。運動会という行事がもつ意義がここでも物を言うからです。この2年間、先輩の姿をしっかりと目に焼き付け、来たるべき晴れ舞台に備えてきた力と思いをここぞとばかりに爆発させるその姿は頼もしい限りです。過去2年間、試行錯誤を繰り返し、紆余曲折を経ながら、葛藤してきたことがここで生きるのです。運動会の価値に手の届くところまできている3年生がもはや迷走することはありません。できることなら、これまでの3年生ができなかったことにも挑戦したいと思うもの。向陽中学校の運動会が毎年進化している理由はここにもあります。ここに至りて人間賛歌を実感できるのです。

3年生には新たな試練が待ち受けています。自分の進路にしっかりと向き合い、自分の力で切り拓くというこれまでに経験したことのない重圧がかかります。ことここに至りて甘えは禁物。しかも長丁場です。そこで、私は3年生に「受験は個人戦でもあり、団体戦でもある」という言葉を贈りました。試練を乗り越えた先ではきっと人間賛歌を実感できると思います。

〈 ボランティア活動を推奨するのは“人間賛歌”を実感できるからです 〉

毎年その数は増加の一途をたどっています。例えば、西永福駅前での「社会を明るくする運動」のティッシュ配りボランティアの数は、平成27年は10数名でしたが、毎年10数名ずつ増え続け、平成30年には50名を超えるまでになりました。今年度も「生徒一人1回、自らボランティア活動に参加する」ことを推奨しています。そして、昨年度からボランティア活動に参加した生徒の名前と活動内容、活動日を掲示板（1階金工室前廊下）で知らせることにしました。増



3年生が示した最上級生としての「存在感」と「人間賛歌」！

加の一途はその効果とも言えますが、元々向陽中生は活動的であり呼びかけに気持ちよく応えてくれるからでもあります。できれば、自らボランティア活動を探して参加してください。もしそうした機会が見つからないときは、学校で紹介するボランティア活動に参加してください。様々な人との関わりを通して、人として生きることについて考えさせられると思います。自分なりの考えをもつチャンスでもあります。そして、人として生きることの素晴らしさを実感できたとしたら、こんなにうれしいことはありません。

◇ **【教員の働き方改革】向陽中学校の留守番電話の対応についてのお願い**

く「午後6時30分～翌日午前7時30分」の時間帯が留守番電話となっています」

昨年度から始まった区内小・中学校での2つの「教員の働き方改革」。今年度の「夏季休業中における学校閉庁日（教員の勤務なし）」は8月13日(火)～16日(金)の4日間です。もう1つの「留守番電話の設置・運用」については、下記のような対応で保護者の皆様に御理解と御協力をお願いしておりますので、再度掲載します。

予想される課題への対応についてです。本校の部活動は「午後6時活動終了、午後6時30分完全下校」となっており、午後6時30分から留守番電話に切り替わると、もし生徒の帰宅が何らかの理由で遅くなり、学校に問い合わせても留守番電話になってしまいます。そこで、こうした課題に対して、下記のような対応を取らせていただきたく、保護者の皆様に御理解と御協力をよろしくお願いします。

【午後6時30分以降の緊急時の対応について】

□部活動後の生徒の帰宅途中、生徒が不審者等の被害に遭ったり、遭いそうになったりした時には、生徒が①近隣の人に助けを求め、すぐに警察に110番通報をしてもらう、②向陽中学校の近くであれば向陽中に避難する、③自宅近くであれば帰宅後に自分自身で通報するか、保護者に通報してもらう。

□部活動後の生徒の帰宅が、通常の帰宅時間になっても家に帰らず、連絡等も一切なく確認できず心配な場合、当該生徒の保護者が①学校に来て教員に伝えるか、②施設管理者（警備主事）が携帯する電話（080-4466-0607）に連絡を入れるか、いずれかの方法でご対応ください。場合によっては110番通報をしてください。

※学校携帯への連絡はこうした緊急時のみに限る。

○上記のようなことが起きないように学校は以下のような対応を徹底する。

●「午後6時活動終了」と「午後6時30分を待たずできるだけ早くの生徒下校」を徹底する。※できるだけ午後6時15分完全下校を目指す。大会直前を除く。

●顧問は生徒に下校後速やかにまっすぐ家に帰るよう指導を徹底する。

○昨年7月に始まった留守番電話対応ですが、これまでのところ、生徒の下校が遅く学校に連絡が入るということはありませんでした。

生徒の登下校時間は学校の管理下であり、この時間に生徒が事故等に巻き込まれたり、ふざけ合って怪我等をしたりしないよう安全指導を継続してまいります。ご家庭におかれましても、登下校時の生徒の安全について御指導いただけるとありがたいです。

◇ 保護者・地域と連携して向陽中生を「自立した学習者」に育てる

〈「Cafe 勉」で自ら学ぶ習慣を！〉

「Cafe 勉」は“ゆうゆう永福館2階多目的室”で定期
考査前に開催される学習会です。すでに第1学期中間考
査前にも実施されました。今回の第1学期末考査前は4
日間開催されました。21日(金)の様子を見に行くと、
20数名の生徒が学習に励んでいました。1年生と2年
生がお世話になっていました。自分の家だと勉強に手に



手が付かない生徒も、この「Cafe 勉」で学習する習慣を身に付ける絶好の機会としているよう
です。ちなみに毎週木曜日開催の「木曜 Cafe 勉」(17:00~20:00)もありますので、教えてもらいた
い人、学習習慣を身に付けたい人は参加してみてください。

〈「KOYO スタディ」で自立した学習者へ〉

昨年の登録人数65名が今年は80名を超えたそうです。年々その数が増加の一途をたどる
「KOYO スタディ」。膨れあがった人数をさばくためにどの教室を使えばいいかと、KOYO スタ
ディ実行委員会の委員長小貫美樹さんもうれしい悲鳴を上げています。今年は図書館と美術室、
そしてエアコンのある被服室を使うことにしました。ボランティアとして運営を支えている保護
者の皆様には感謝に堪えません。ありがとうございます。

写真は6月22日(土)の様子です。69名もの参加がありました。大学生や地域の方、元教員
の先生が教えてくれます。ありがたいですね。一人でも多くの自立した学習者が育ちますように。



6月22日(土) 1・2年生は図書館(38名)と美術室(19名)で。3年生は被服室(12名)で。

「これからの向陽中学校」を考える上での“棚卸し”についてご意見をお寄せください。

“棚卸し” 第2弾「定期考査中の“給食”をなくし、教員の採点時間を確保する」

→定期考査の実施では、教員は問題の作成と答案の採点に時間を要します。特に採点
業務は、勤務時間内で終わることができず、遅くまで学校に残って採点したり、答案用
紙を自宅に持ち帰って採点したりということが常態化しています。考査問題の作成でも
同様のことが言えます。現在、考査期間中に給食を行うために、1校時を教科の授業、
2~4校時を定期考査に当てています。もし、「給食なし」にすると、1校時の授業と
給食時間がなくなり、1時間30分程度生徒下校が早まります。採点時間の確保の観点
から、定期考査の翌日も午前授業にすることも検討したいと思います。ただ、授業時数
の確保(9~10時間減)という新たな課題も生じますので、今後検討していきたいと
思います。